

# 新とよはし 第136号

(改訂版)

2022年11月6日  
豊橋市議会議員  
齋藤ひろむ・鈴木みさ子・  
中西みつえ  
0532-54-8215

## 「新アリーナ建設」は市民の声を聞いて！ 「住民投票」の実現めざす署名活動がスタートします。

10月17日に「住民投票の実現をめざす市民の会」のみなさんが、「豊橋公園への新アリーナ建設の賛否」を示すための、住民投票の実現に向け、住民投票条例制定のための署名活動に取り組むことを発表し、受任者集めがスタートしました。

日本共産党も、この直接請求署名運動に全面的に賛同し、立場を明確にして、住民投票実現のために力を尽くすことを、記者発表しました。

(共産党市議団と、日本共産党市委員会の立場、見解を示した声明文は裏面のとおりです。)

### 住民投票実現までの大まかな流れ

- 署名期間 11月15日～12月14日の1か月間  
↓
- 市長が議会を招集、「住民投票条例案」を提出(1月中旬から下旬頃)  
(20日以内に臨時議会の開催)  
↓
- 議会で条例案が成立すれば、住民投票の実施(市議会選挙と同時投票をめざす)

### 「受任者」募集中です

署名を集めることができるのは「受任者」と呼ばれる人で、署名は18歳以上の有権者から対面で集めるというルールがあります。

豊橋市の有権者は約30万人、その2%ですから最低でも6000筆が必要です。ダブリなど無効署名も一定数考えられるので10000筆をめざすということです。ぜひ、受任者になっていただくよう、呼びかけます。

### アリーナに賛成の人も反対の人も、住民投票で意思を示そう

住民投票はアリーナに「賛成か」、「反対か」市民が投票で意思を示す「直接請求」です。豊橋ではユニチカ問題で、市民によって市の誤った判断を正したという経験があります。アリーナ問題でも、市長が市民の声を聞かないのなら直接市民がYESかNOの声をあげ、市民の手によって市政課題を動かすことのできるこの取り組みにぜひ参加しましょう。

### 署名成功めざすスタート集会

11月12日(土) 午後2時～3時30分

豊橋市民文化会館第4会議室

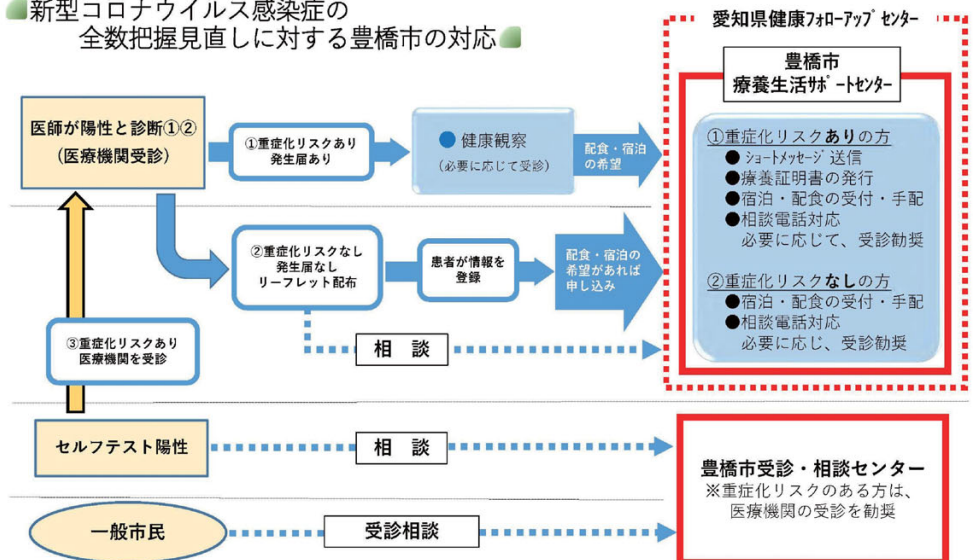
主催：白紙撤回を求める会他

●署名活動について説明もあります。

### コロナウィルス感染症の療養方針が変わりました

国のコロナ感染症の全数把握の見直しに伴い、豊橋の対応が以下のように変更されました。市議団は、発生届のない感染者の自宅療養中の急変などにも対応できるサポート体制の強化を求めました。

#### ●新型コロナウイルス感染症の全数把握見直しに対する豊橋市の対応●



「豊橋公園へのアリーナ建設の賛否を問う住民投票条例」の制定を求める直接請求運動に全面的に賛同し、日本共産党も住民投票の実現へ全力をあげます。【声明】

10月31日

日本共産党豊橋市委員会  
委員長 鈴木みさ子  
日本共産党豊橋市議団  
団長 斎藤 啓

去る10月17日「住民投票の実現をめざす市民の会」が、市民のみなさんが直接「豊橋公園へのアリーナ建設の賛否」を示すための、住民投票の実現にむけて、住民投票条例制定のための署名活動に取り組むことを表明しました。

日本共産党も、この直接請求署名運動に全面的に賛同し、住民投票の実現のために力を尽くします。

5月30日に浅井市長が「豊橋公園への多目的屋内施設の整備」を発表してのち、6月議会で、「基本計画策定と要求水準書等作成委託業務」の5,500万円の予算提案があり、年度途中での市の機構を変えて「多目的屋内施設整備推進室」を設置するなど、「新アリーナ建設計画」が異例のスピードで進められています。

佐原前市長時代の「アリーナ建設計画」は、アクセスや地域の環境、市民不在の計画など多くの問題点が指摘され、民間企業と市との折り合いがつかずとん挫しましたが、今回の「多目的屋内施設整備計画」は、その時の計画以上に、手順がずさんで不透明なもので、5月30日の発表も市民の声を聞いたものではありません。

日本共産党は、市長選で浅井現市長が「市民軽視」の前市長の姿勢を批判し、市民の声を聞く市政への転換を掲げたことを評価し、市長選において全面的に支援をしました。浅井市長は選挙中に、アリーナ建設について、豊橋公園以外の場所で市民の総意を得て進める、と公約していました。市長選の結果は、それを支

持する多くの市民の民意が反映されたといえますが、その公約を反故にし、強引に計画を進めていることは看過できません。

市の発表では、整備手法はPFI手法のBTコンセッションも視野に入れているとしています。民間企業に運営を委ねることで、市民のための公共施設ではなく、民間企業の利益を最優先とする施設となることも懸念されます。

観客数5,000人規模は2026年からのバスケットボールの新B1リーグの基準を想定したものであり、現在の動員実績から見て、フェニックスが負担金を払い続けられるか不安視されています。バスケットボール以外の他のイベントなどの採算性など、民間企業の運営の見通しも不透明です。

豊橋公園への来訪者のアクセスの手段、駐車場の問題、交通渋滞への対応、近隣住民の住環境への影響など、従来から指摘されている問題点も、解決策は何一つ示されないままです。

日本共産党豊橋市委員会と党市議団は、このような問題だらけの計画を国と県の意向を優先して進めることに対し、白紙撤回を求める「申し入れ」を市に対して行なってきています。

また、これまで市民団体のみなさんとも検討を重ねてくる中で、この「新アリーナ建設」は白紙撤回しかないこと、そのために、市民が市政の主人公として直接市政に参加する制度である直接請求で、「新アリーナ建設の是非」を住民投票で問うことを、党としても全面的に賛同をし、その成功のために全力を尽くすこと、同時に議会の内外で、市民のための「多目的施設のあり方」を再検討することを求めていくことをあらためて表明いたします。

## 日本共産党豊橋市議団



斎藤ひろむ



鈴木みさ子



中西みつえ